

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回藤井寺市保健福祉計画推進協議会・いきいき長寿部会
開 催 日 時	令和8年3月16日（月）午後2時から午後3時30分まで
開 催 場 所	市立福祉会館 3階 305会議室
出 席 者	<p>委 員：部会長 藤本 恭平（保健福祉関係機関）          委員 福田 浩史（保健福祉関係機関）          中西 秀之（保健福祉関係機関）          岡野 明美（学識経験者）          林 均（保健福祉関係団体の代表者）          西野 由美（公募による市民）</p> <p>事務局：健康福祉部 部長 村本 匡成          健康福祉部 次長 福田 博章          健康福祉部 高齢介護課 課長 澤多 良明          健康福祉部 高齢介護課 課長代理 小井谷 健二          健康福祉部 健康・医療連携課 課長 白形 幸子          健康福祉部 高齢介護課 高齢者福祉支援担当チーフ          松井 伴樹          健康福祉部 高齢介護課 サービス担当 伊藤 優子          健康福祉部 高齢介護課 総務担当 今福 奏          大橋 真澄          地域包括支援センター長 石山 直哉          地域包括支援センター主幹 漆島 典子          地域包括支援センター係長 羽根 武志          (株)サーベリサーチセンター大阪事務所 西川 理津子</p>
欠 席 者	委員 奥田 赳視（保健福祉関係機関）
会 議 の 議 題	<p>(1) 『第10期藤井寺市いきいき長寿プラン』策定のために実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査結果の報告について</p> <p>(2) その他</p>
会 議 資 料	<p>①本日の会議次第</p> <p>②資料1 藤井寺市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査          ≪集計結果の概要≫</p> <p>③資料2 藤井寺市在宅介護実態調査          ≪集計結果の概要≫</p>

	④藤井寺市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ⑤藤井寺市在宅介護実態調査
会 議 の 成 立	委員 7 人中 6 人の出席があり、藤井寺市保健福祉計画推進協議会規則第 7 条第 5 項の規定により成立
傍 聴 者	0 名
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記 録 内 容 の 確 認 方 法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他
公 開 ・ 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開

## 審 議 の 内 容

### 開会

- ・事務局より、会議録音・議事録公開についての説明
- ・事務局より、傍聴者なしの報告
- ・事務局より、会議成立（出席委員 7 名中 6 名）の報告
- ・事務局より、委員および事務局職員の紹介
- ・事務局より、配布資料の確認（資料変更箇所の説明）

### (1) 『第10期藤井寺市いきいき長寿プラン』策定のために実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査結果の報告について

- ・事務局より、資料 1、資料 2 について説明  
(質疑応答)

部会長：何かご質問、ご意見はあるか。全体を通した感想でも構わない。

林委員：資料 1 ニーズ調査の 6 ページ、耳の聞こえに関する日常生活についての集計は、なるほどと思った。右側の円グラフに、補聴器の使用状況がある。聞こえに課題をお持ちなのに補聴器を使っていない人が 88.4% いる。私の父もそうだったが、補聴器を使わない。聞きたくないこともあるから聞こえなくて良いと言っていたことを思い出した。補聴器購入費用の一部補助等について、他団体との差はあるのか。藤井寺市ではそういう制度があるのか、教えてほしい。

事務局：藤井寺市では、障害のある方は別として、加齢に伴う補聴器の導入補助制度はない。今後については未定である。他団体の実施状況は把握できていない。

林委員：補助制度は広がっているのか。

事務局：近隣の、南河内においては、補助制度は広がってきている。

林委員：7 ページの上のグラフについて。老人クラブに 71.6% が参加していないという結果が出ている。もう一点気になるのは、無回答である。老人クラブに所属していないから参加していないのか。無回答はどういうことか。それから、町内会・自治会には 54.6% が参加していない。ただ、その左側の 18.8% が年に数回とあるのは、地元の秋祭りや行事等には参加しているということだと思うが、こども無回答が 19.1% ある。これは

会員ではないという意味か。分析したところを教えてください。それと、市が主催する体操等の介護予防のための教室には、参加していないが一番多く73.5%ある。ここも、無回答が22.7%だが、これはこういう教室に登録していないから参加していないと読み取るのか。

事務局：ニーズ調査の9ページ問43の質問になるが、恐らく回答の仕方がわからない方が無回答になっているのではないかと考える。高齢になると、この表自体が回答しにくい方が多いようである。次回はこの書き方についても検討する必要があると考える。

林委員：会員でないから無回答にしたのではないかと思う。そのあたりも含めて、問43については反省点があるかもしれない。

事務局：市が主催する体操等の介護予防のための教室に参加していない方や無回答の方も多いが、市が主催する介護予防のための教室がどの教室にあたるのか認知されていない可能性もあると思う。市としては介護予防のために実施しているが、市民に伝わっていないこともあるかもしれない。

部会長：耳の聞こえに関して、障害のある方への補助はあるが、加齢に伴う難聴は相当多い。難聴が認知症の一番大きな要因になっているという話もある。聞こえにくくなっていることを、なかなか認めたくない問題もある。疾患ではなくても、本来は障害のある方も含めて専門医を受診して適切な処方を受けることが、一番正しい。ただ、一般的な疾患でない難聴への対応が我々も把握できていないし、なかなか上手くフィッティングしていないために、聞こえていないのに補聴器を利用しない方がとても多い。広報は全戸配布なのでそれを見る機会、もしくはホームページを見る機会は増えているが、フレイルという言葉の認知率が低い。ロコモティブシンドロームは筋肉の疾患だが、色々なところでフレイルという言葉は使われている。健康寿命を延ばす意味では、人の手を煩わせずに快適に長生きするために今後取り組んでいく必要がある。

福田委員：フレイル、ロコモもそうだが、何故カタカナなのか。恐らく専門学会でそうなっていると思うが、ユーザーは一般市民である。ユーザーに通じない言葉を我々のほうで決めてしまうことは、いつも患者さんと話す時に悩ましい。例えば、フレイルティ＝虚弱からきているから虚弱と言えば良いのに、何故言わなかったのか。AIに相談すると「虚弱化」としてはどうかとの回答があった。もう少し日本語でわかりやすくしないと、永遠に続く課題ではないか。今の死亡原因の2位が老衰である。フレイルというのは、老衰で弱っていくという話をよくする。それを嫌がる人はいない。衰弱予防、虚弱予防、予防化等、もう少し日本語でわかりやすくしないといけないと思う。

部会長：決まった言葉ではあるが、ただそれをわかりやすく噛み砕いて広げていくことは、可能だと思う。

福田委員：ごちゃごちゃと説明を書かずに、一言でわかるような日本語を付けてはどうか。

岡野委員：在宅介護実態調査の1ページ目の要介護度の内訳について。軽度の方の回答が中心との説明があったが、この割合は毎回こんなものなのか。介護度が上がると回答もできないし、家族も回答しないこともあると思うが、実態調査と介護度の割合は、これで仕方がないという理解なのか。

事務局：今すぐには発送時の割合は把握できない。

岡野委員：実際に介護認定を受けた方の比率も影響していると思う。そこと合わせてこの回答の割合が妥当ということであれば、そこを確認したかった。

2点目は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査15ページの認知症相談窓口の認知度について。前回より多少良くなっているが、どう読み取っているのか。周知はしているが、市民の認知度が高まらないと感じているのか。

部会長：これまでの調査では、継続して微増しているのか。

福田委員：身につまされないと調べないのではないか。今は調べるとすぐに出てくる。市として広報していても、その情報は身につまされないと取らない。だから結局、あまり変わらない状況のままなのではないか。

岡野委員：藤井寺市ではないが、他市の包括では重度にならないとなかなか相談に来ない。そうなるからでは、打てる方法も少なくなる。そういう意味では住民の意識が必要だが、認めたくないという思いもあって難しい。

福田委員：患者さんを見ていても、ちょっとと思う人はいるが、家族にも本人にもなかなか言えない。一般の人は、余計そう思っているのではないか。

部会長：自分はできている、まだまだ大丈夫とおっしゃる方も相当数いる。わからない状態で日常生活を送っている場合もある。平均寿命は、どんどん延びている。人に迷惑をかけたくないと思っている人も多いと思う。

福田委員：他市でもっと広げている、実際効果が出ている事例はないのか。

岡野委員：A市が上手くいったことを、B市が真似して上手くいくとは限らないところが難しい。15ページの認知症になっても安心して暮らせるために充実してほしいことに、「認知症に関する偏見を持たない地域づくり」という回答が18.1%ある。そういう意味では、住民の意識がまだそこまでなっていない、他人事と思っていると感じた。

部会長：本人に受診勧奨するのは、なかなか難しい。精神障害の懇談会でもそういう話が出た。専門病院への受診につなげる仕組みづくりというか、我々が意識を持っていかないといけない時代になっている。

資料1の15ページに「緊急時に対応できる病院・診療所、施設」が4割近くと高いが、資料2の8ページでは緊急時の対応の項目はあえて入れなかったのか。

事務局：資料2の8ページの調査項目は国の項目になり、緊急時の対応自体が入っていなかった。ニーズ調査の15ページにあるのは、市独自の調査項目になる。

## (2) その他

西野委員：今までは巡回バスがあり、それから乗り合いタクシーに変わったと思う。そのことによって、出かけることを控えるようになった人はいないのか。乗り合いタクシーは、予約をしないと乗れない。巡回バスは、バス停留所に行けば乗って市役所や市民会館を回ることができたのに、乗り合いタクシーは行く場所が限られてしまう。市の健康体操等に参加したことがあるか、みたいな項目もあったと思うが、そこまで行くのに遠い場合もある。車に乗っていなければ自転車でも来られない。巡回バスがないことによって、市の事業に参加できなくなっている人も少なくないのではないか。この調査の時にはタクシーに変わっていたかもしれないが、以前の調査の巡回バスで来られていた人との差がこれではわからない。乗り合いタクシーになって良かった、あるいは、行く場所が限られてしまって足がない等の市民の声はないのか。体操等も、元気な人しか来られない。色々なところから拾うことはできないのか。

事務局：デマンド型タクシーは、都市整備部が所管になる。健康福祉部とは所管が違うが、知っている限りの情報をお伝えしたい。確かに予約の煩わしさの懸念はあったが、実績として8割程度は高齢者が利用している。予約方法がわからず利用していない方もいると思うが、想定よりは利用されている状況である。以前の循環バスと今のデマンドの違いは、まず全体的には料金が発生する・しないという問題がある。また、以前の循環バスはすべてのバス停に必ず停まるので、目的地まで行くのにかなり時間を要していたが、デマンド型は予約制なので比較的早く移動できるという声はいただいている。今までの循環バスより早い、それを逃すと、ということもあり、一長一短だと思う。実績をみながら乗車が少なくなるは廃止したり、逆に今までなかったが作ってほしいという要望があり新設したり、マイナーチェンジしながら進めている現状である。

西野委員：市役所や市民会館に行く術がないという声は、聞かれていないのか。

事務局：そういう声もある一方で、比較的早く行けるから良い等、さまざまな意見があるのが現状である。

福田委員：利用していない人からは聞いていないのか。

事務局：アンケートはとっている。

福田委員：利用している人だけに聞くと、良いことを言う。

西野委員：面倒で予約しにくいと聞く。

事務局：デマンドは前日までに予約しないといけない。

西野委員：今日お天気が良いから出かけよう、みたいなことはできない。確実に予定を組んで行かないといけないところがあると思う。

部会長：それでは、これをもって閉会する。

閉 会

(追記：後日回答)

本委員会において回答できなかった事項について以下のとおり回答する。

・藤井寺市在宅介護実態調査において、要支援者から要介護1の方の回答者が多くなっていることについて質問あり。

→調査対象者の要介護度と回答者要介護度の割合を比較した結果、大きな差はみらない。「在宅」でお越しの要支援・要介護認定者の方を対象とした調査となるため、要介護度が高い方は施設入所等もあるため)

【要支援1～要介護1の割合／対象者：65.6%、調査回答者：65.7%】

今度、詳細な分析を進める際に、介護度別（軽度・中度・重度）等でのクロス集計を行うことから、介護度の状況による傾向の把握に努める予定である。

了承状況：全出席者より異議なし